

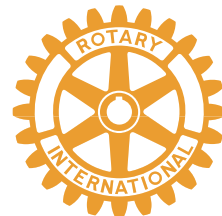
国際ロータリー第 2570 地区 (埼玉西北)

2019-2020年度 Vol. 13

ガバナー月信

13

Rotary



Rotary International District 2570
GOVERNOR's MONTHLY LETTER
Vol.13, 2019-2020 fiscal year



ロータリーは
世界をつなぐ



新型コロナウイルスに翻弄されたが、

ガバナー一年度を振り返って

1年間お世話になりました。皆様方のご協力を心から感謝申し上げます。

思い起こせば一昨年12月、止むを得ず2度目のガバナーを引受けることになりました。前回ガバナーから7年目の就任になる。前回ガバナーを経験しているので、そして私自身が(本年度までの3年間)日本ロータリーチームにて(コーディネーターとして、全国のガバナーエレクトやノミニーに対して)教育係を務めているので、ガバナーになる為の教育(国内で2回のGETS:ガバナーエレクト研修セミナー…地区ではPETSに当たる…や国際協議会…地区では地区研修協議会に当たる)へ出席する必要はないだろうと思っていた。しかし世界では認められず、「既に終了しているGETSへは補講を受けて、翌月早々に米国サ

ンディエゴで7日間に亘って開催される国際協議会へは、出席必修」との事、7年前に受けた教育では賞味期限が切れているらしい。俄かに慌ただしくなってきた。

国際協議会から帰国後には、色々な準備も儘ならないままに2月の地区チーム研修、3月のPETSを研修委員の皆様方のお陰で終了し、4月の地区研修協議会では川本ロータリークラブの皆様方に大変お世話になり無事に終了出来ました。川本RCは会員数が少ないにもかかわらず、皆様総出でご尽力下さり、費用抑止にも大変ご協力頂きました。

7月に2019-20年度が始まると、直ぐに公式訪問が始まった。久々のクラブ訪問だが、既

に面識のある方々との再会や初めてお会いする新会員の方々との懇談、各クラブの誇れる点のご披露を伺わせて頂く等、有意義な毎日であった。ガバナーは色々なクラブのお話を聴く事が出来るが、一般の会員は、同じグループ内の他クラブの話を聞く事が出来ても、他グループ所属クラブの話はなかなか聞く機会がない。クラブ役員さんが自クラブの誇れる点を嬉々として話されるのを聞きながら、他のクラブの皆様聞いて頂く機会を、必ず作ろうと考えた。具体的には地区大会でパワーポイントを活用し写真や動画を交え、クラブ会長に発表して頂く案を心ひそかに練り始めた。

公式訪問は11月中頃に終了したが、この後も自分の関連する会議や行事等で、2019年は終了した。

地区大会の中止

2020年1月、ロータリーを始め、私に関係する諸団体の新年会やその他会合そして、自分の叙勲(前年に旭日小綬章を頂いた)祝賀会等で慌ただしく過ぎ、2月になってから世間で新型コロナウイルス感染拡大が急に問題になって来た。感染拡大防止の為の接触回避その為の外出自粛が盛んに言われ出した。地区として会議の持ち方に対して各クラブへ発信した。

私自身、4月18・19日に予定している地区大会の開催の中止決定を迫られてきた。3月5日地区大会開催予定地である行田市にて、新型コロナウイルス感染者が出た。この状況では地区大会予定会場の使用は禁止になるだろう。又、日程を延期しても2019-20年度内(つまり6月30日迄)の開催は不可能と考え地区大会中止を決定し、3月10日に

各クラブ宛にその旨を連絡した。翌3月11日WHOはパンデミックと表明した。

地区大会中止の理由は、1. 大会へ参加した会員が感染し、ご家族や周辺の方が感染する事を防ぐ事 2. ロータリーは「疾病予防と治療」に注力している。そのロータリーの会合が感染ルートになってはいけない。以上2点だ。

地区大会を中止した代替として、「1. 地区重要事項について書類審査して頂く。2. 四委員長紙上座談会や、各クラブの誇れる点(A4版1頁に表記)を冊子にする。3. 地区大会に合わせて埼玉県知事と座談会を開催する計画は、大会を中止しても知事との座談会は予定通り実施し、新聞へ掲載する。」

とした。知事との座談会は地区として(おそらく全国でも)初めての事であろう。大会予定日前日の4月17日に掲載され、多くの方の目に触れた様だ。一つには掲載紙の発行部数が多かった事、そして何より知事との対談という事が世間の方々の目を引いたようだ。地区として先鞭をつけたつもりだ。次年度以降も実施されたら如何であろう。何と言ってもガバナーを和訳すると「知事」なのだから。又、クラブ会長に就任されたら地域の首長と対談され、広報したら如何であろうか。

冊子については「幻の地区大会」と名付けた。知事との対談紙面縮刷版と共にお手元へ届いていると思う。

地区大会の他に、各委員会に於いても年

確実に前に向かっていく。

確実に前に向かっていく

地区大会を止むを得ず中止した事は残念だったが、この新型コロナウイルス感染禍の下で、色々に対応しなければならなかった経験は、得難い貴重な体験であった。

その一つに、青少年交換学生の早期帰国問題が有った。イタリアが、アメリカが、フランスやスペインが、夫々大変危険になる情報が入ってきた。これらの国へは当地区から学生が行っているではないか、青少年交換委員と共に心配が募ってきた。しかし当初、ご本人達は派遣受入先が良くてくれていた事も有って、当該国での満期滞留を希望していた。途中帰国すると単位が頂けないとも心配していた。

3月に入ってから様相が変わり大変厳しくなってきた。ガバナーとして帰国命令を出した。それでも未だ踏ん切りの付かない生徒も

いた。しかし受入先各位や当地区青少年委員そしてご家族の努力の甲斐あって皆無事に帰国出来た。この間の連絡・説得・交渉に、特に高橋貴子さん（行田さくらRC）に持ち前の英語力を生かして、大変ご活躍頂いたことを付記します。それと、早期帰国した彼等は、無事帰国後に、夫々が希望の形で就学出来ている事も。

ここまでお読み頂いて気になる事が出てきたと思います。次年度青少年交換派遣生としてこの1年間勉強してきた彼等はどうなるのか？……残念ながら本年夏の渡航は有りません。しかし彼等は1年繰延べして派遣される事になった。オリンピック選手同様、繰延べした1年間に勉学にそして更に自分を磨く事に努力され、来夏に素晴らしい渡航・勉学をし

て頂きたいと願います。

ロータリー財団奨学生3名の内、1名は上期に派遣先大学の授業をオンラインで受け、下期来年1月に渡航予定です。他の2名は、1年繰延べして次年度派遣される予定です。彼女達の成長を見守りたい。

ここ数年、地区ガバナーの受け手が中々出なくて困っていたが、本年度終盤になって入間RCの皆様のご協力により水村雅啓氏がガバナーノミニーに、本庄南RCの皆様のご協力で村田貴紀氏がノミニーデジグネートに手を挙げて下さり、夫々が地区クラブ各位のご承認を頂き、年度が替わった今はエレクトとノミニーに就任した。地区クラブ各位に感謝申し上げます。ご両人の今後のご活躍を祈念すると共に、この後も候補者が陸続する事を期待します。

度後半に予定していたセミナーや会議等を縮小若しくは中止せざるを得なかった事は残念だったが、工夫で代替を実行された委員各位に感謝と敬意を表します。

地区大会及びその他の事業を縮小した事により、地区予算執行が少なくなり、これを踏まえた地区特別事業としての埼玉県への寄付及び希望の風奨学金支援の増額を含む地区決議に、全クラブご承認頂いたこと心から感謝申し上げます。

お陰様で埼玉県へは500万円（2地区合計1,000万円）、希望の風奨学金へは200万円を差し上げ、又ロータリー財団補助金を活用して埼玉県へ25,000基のフェイスシールド（2地区合わせて50,000基）を贈呈実行し感謝状を頂いたことを報告致します。



コロナ禍とその後を見据えた脚下照顧を 職業奉仕・社会奉仕へ貢献

新型コロナウイルス感染は色々な点で、問題を投げかけた。ロータリーに限らず、全国民を挙げて取り組む必要が有る。「コロナ騒動の陰で露呈してきた問題」だ。この問題への対処が大切だ。

1. コロナ感染拡大を防ぐ為の外出自粛と外出自粛による経済の後退。短期間であれば二者択一、当然「命重視」だ。経済の後退は止むを得ない事と受け留め、全国民挙げての外出自粛。緊急事態宣言になった。

2. しかしコロナ禍が長期化してくると経済の後退が大問題となって来た。これを踏まえて私は「経済をコロナ禍との対立ではなく共生を目指そう。ロータリアンがその原動力になれないだろうか? 地域でロータリアンが話し合い、コロナ対策と経済活動の両立での指導者たる事を願う。」と綴った。これこそ正に職業奉仕であると申し上げます。

3. 既に申し上げた様に全国民が知恵を絞り、自粛という努力を重ねている。そう近くはないかも知れないが、新型コロナウイルス感染はやがて防止出来るだろう。否、そうではなくては困る。で、問題は新型コロナウイルス騒動終息後の事だ。3か月以上の自粛生活の中で、「有れば欲しかったが、無くてもどうにかなった。」とか、「どうしても必要で色々探したが、見当たらなかったで代用で間に合わせた。或は自分で工夫して作った。」とか、生活の価値観に変化が感じられるようになる今日この頃だ。「以前に売っていたから、消費が戻れば売れる。」とか「世の中が元に戻れば、需要は以前の様に戻って来る。」と、考えることは危険だと私は考える。この自粛に耐えた3か月の間に、世の経済活動は元より、社会通念・常識も変わってきた部分があると考えている。今迄の状況が、やはりバブル状況であったと考える。必要な余力は大切だが、無駄なものや過剰なものは整理して考えるべきであると思う。

単に物品の事だけではなく、会議や行事、生活スタイルやそれによる新しいビジネス迄も含めて、今までの物事の存在価値・必

要性等を基本から考え直す所謂「脚下照顧」を行うべきと考える。その結果自社の新しいビジネスモデルを構築する。これを踏まえ業界に提言する事は素晴らしい職業奉仕だ。業界のみならず新しい生活スタイルを地域へ発信できれば素晴らしい社会奉仕と考える。

4. 一方で、オンラインスタイルが徐々に浸透してきている。外出自粛の今こそこんな便利なものはない。工夫次第で更に便利になるだろう。

しかしこの機会に、何でもかんでもオンラインにするのではなく、オンラインで済む事とそうで無い事との見極めも大切であると考え。オンラインで済む場合とオンラインでは実態が見えない、心が通じない場合もあると考える。この機会にオンラインに関し、ロータリアンが率先して諸事に対し前項と同様に心して脚下照顧を行い、新しい方向を見出す必要が有ると考えている。

指導力

ロータリーにはその行動指針を表している「中核的価値観」が有る。5項目有るが紙面の都合で第5項目の「リーダーシップ」について触れる。今回のコロナ禍の騒動の中で、この「リーダーシップ:指導力」について考えさせられた。

コロナ感染防止の為、「現状認識コメント」や「注意呼びかけ」や「自粛呼びかけ」「協力依頼」等の発表がテレビを通じて色々行われた。が、この発表に少なからず驚いた。政府要人の発表に現実感、危機感を少しも感じられなかった事だ。先ず発する言葉に説得力がない。「△△について〇〇をしっかり行いたいと思う。」等をよく耳にした。私なら「△△について〇〇を行う。」と言う。「しっかり」は色々な政治家がどんな時にもつける修飾語で説得力がない。「〇〇を行いたいと思う。」は責任感を感じられない。リーダーであるなら「〇〇を行う。」と言い切って貰いたいものだ。同じような言葉ばかりで気になる事を掲げよう。「〇〇についてお詫びしたいと思います。」等と云っているのをよく耳にする。「〇〇についてお詫びします。」と、どうして言えないのだから?

記述が長くなってしまうが、指導者として大切な事と考えているので敢て触れる。今回のコロナ禍の中での政府要人の言葉でもう一つ気になる発言が有る。それは「専門家の意見に従って」、「専門家の意見を尊重して」等と

云う言葉だ。「専門家の意見を参考にする」事は当たり前だが、参考にした上で責任者として自分の判断を発表して頂きたい。そうで無いと、専門家に責任転嫁するように聞こえてくるとはではないか。

それと、発表する際にメモを見ての場面が多かったと感じている。項目が沢山あるならメモに目を落とす事は止むを得ないと考えるが、大した項目もないのにメモに視線が行きすぎる。ある大臣は殆ど「メモの棒読み」であった。これでは熱意は感じられず、注意や施策に対しての国民の共感を得られるとは思わない。政治家の話をしているが、今論じている事は政治とは何の関係もない、「指導者の資質」についてである。

私は元来、批判論者ではない。批判するよりされる事が多い立場であるし、月信5月号で「批判は簡単だが、物事を前へ進めることは難しい。」と述べている。しかし、このコロナ禍の中での政府要人の発言にはがっかりしている。国の行く末を案じる指導者ではなく、単なる事務官の発表だ。これに比較する訳ではないが、東京都知事を始め、北海道知事、大阪府知事、埼玉県知事は夫々素晴らしい発信をしていると感じる。視線はテレビカメラに向けられ強い目力を感じる。

縷々綴ってきたのは発表の方法である。当

「ロータリー希望の風奨学金」への
支援金贈呈に対する感謝状



然発表の内容の方が倍も十倍も否百倍も重要である。内容については、近視眼的には一時鎬も必要であろう。しかし、遠くを見据えた長期展望が、我々の将来に大きな影響を与える。

ここはロータリーの場合だ。皆様には、ロータリーの諸事業・諸行事について脚下照顧を行い、長期展望について論じて頂きたい。

脚下照顧と言うと或る意味では温故知新だ。事業なり行事なりの原点に触れる必要がある。場合によって前例を調べることも必要だ。しかし、前例に捉われず、原点(意味合い)を考えて、そこから新しい方向に進んで頂きたい。間違っても「前例に無いから」等と言って新しい事を排斥することの無いように。

末筆になるが、月信編集委員会の皆様方に大変お世話になりました。台割(記事の割り付け)から始まり、原稿集め、校正、そして校正、又校正。委員の方々の校正眼も素晴らしい。単にテニオハを確認するのみならず、記述事項の確認・版權・著作権まできちんと確認して頂ける。若干うるさく感じたものの120%の信頼を置けた。委員の皆様のご労苦に対して衷心よりお礼申し上げます。

最後に、この月信に毎回そして最後まで、お目通し下さったロータリアンの皆様に、心から御礼申し上げます。

この度、国際ロータリーから 「2019-20年度ロータリークラブ賞」の 受賞クラブが発表されました

これは、当該クラブが「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマを実践されたことを称えるもので、当地区では「坂戸RC」「和光RC」「所沢中央RC」「岡部RC」「深谷東RC」「深谷ノースRC」「熊谷RC」の7クラブが受賞されます。誠にありがとうございます。

ロータリー賞は、クラブに授与される最も重要な賞です。世界中のロータリアンにとって課題の多い年度ではありましたが、これらのクラブが目標を達成されましたことは、ロータリーの強化とロータリーの未来形成の大きな後押しとなります。

今後のご活躍と更なる発展を祈念申し上げます。

2019-20年度地区ガバナー 鈴木秀憲



鈴木年度を振り返って—パストガバナー

鈴木秀憲ガバナー、ご苦勞様でした。



梅沢 定彦 所沢

鈴木秀憲ガバナー年度終了に対し、一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

鈴木ガバナーは、地域の支援もあり、再度(二度目)のガバ

ナーの重責を担い、真に当地区(第2570地区)の救世主と言える大役をお引き受けくださり、本当に心から感謝申し上げます。加えて、本年(令和2年1月)の当初より、「新型コロナウイルス」に対し、見事に乗り切り、本来のRC活動以上に、地域社会に貢献されました。特に報道関係では、読売新聞を通じて、県知事との対談等、大きな功績を残されました。加えて鈴木ガバナーご本人も国から今までの功績が認められ、「叙勲の榮」に浴するなど、本当に地区及び地域のリーダーとして、大活躍され、まさに私たちロータリアンのお手本になり、大いに敬意と感謝をいたします。共にそれを支えてくださいました地域役員の皆様、奥様に深く感謝の意を表し、お礼とさせていただきます。



男の花道

高橋 福八 本庄

(一)二度目のガバナー

鈴木ガバナー！ 激動の一年間、お疲れさまでした。当時ガバナーが決まらず、結局鈴木パストガバナーが指名委員長としての責任を取って、「二度目のお勤めを受けた」と伺い私は「これはいい人事」と直感した。鈴木さんならば前回のガバナーの時と又変わったカラーが出せると思った。

それにしても世界大会・地区大会を始め重要な会議が突然全て中止になったとは大変なことである。「普通の人間なら、どうしていいか判らない」と尻尾を巻く処である。

(二)災い転じて福と為す

でも鈴木ガバナーはこの難局を災い転じて福と為したのである。この大ピンチを全てプラス指向に瞬時にスイッチを入れ替えた。

まず第一に「ロータリーは日頃から世界で疾病予防と治療を大きな柱に掲げている。

そのロータリーが、コロナウィルスの感染ルートになってはいけない」とガバナーの一番大きな舞台となる見せ場の地区大会を第一に中止した決断に、私は脱帽した。

(三)地区大会費用を埼玉県に寄付

そして隣の地区と話し合い地区大会の費用二地区合わせて一千万円を埼玉県の新型コロナウイルス対策費として、加えてフェイスシールド五万個を同じく埼玉県に寄贈。続いて大野知事と鈴木ガバナーの対談を読売新聞に一面全部使って掲載。この記事はロータリー以外の多くの県民の目に留まり大きな話題を呼んだ。

(四)ガバナー人気急上昇

ここ数年ガバナー立候補者が少なかった。ところが今年は次年度から三年間内定という様変わり。今やガバナーは人気ポストになって四年後の人選が既に始まっているという。

これはまさしく鈴木ガバナーの功績である。

鈴木ガバナー！ 地区大会よりもはるかに大きな「男の花道」を無事渡り終えておめでとう！

心からお祝い申し上げます。

「COVID-19」永遠に残る歴史的年度



野中 弘之 熊谷東

鈴木ガバナーそして地区役員の皆様お疲れさまでした。誰も考えも及ばなかった新型コロナウイルスの世界的蔓延。社会生活の有り方まで問われる大変な年でした。

英断にて再度就任された鈴木ガバナーにとっても、各部門を担当する地区役員の方々にとっても、年度後半を考えると心残りの部分もあるかと思いますが、鈴木ガバナーと知事の対談とロータリーの基本理念を我が国を代表する新聞の1面を使用しての広報。本日送付された「幻の地区大会」の色彩鮮やかな記録誌。いまだ読んでいないが立派な内容が予感される。強く印象に残ります。

そして、年度内にガバナー・デジグネートまで決定したことは、この制度が出来て当地区初めてのこと。慶賀の至りです。

私個人としては、持病の腰痛の悪化に苦しめられ、手術も受けたが期待したような結果にはならず、半年位 様子を見るようにとの医師の言葉に期待を継いでいる次第です。

再挑戦 知見・気力で
大成功

真下 和男

東松山

地区初めての2度のガバナー、本当にご苦勞様でした。

充分な経験とあふれる知力、加えて気力、優れたガバナーでした。

公式訪問は予定通り実施できましたが、後半の4-5か月が新型コロナウイルスの世界的な流行の影響で地区大会中止の決断をされたことは、時期的に判断の難しかった当時としては苦渋の思いであったでしょう。地区大会は中止されましたが、特集冊子により地区・各クラブの取組をよく理解できました。

また、その埋め合わせを兼ねた読売新聞への地

区のロータリー活動の報告、大野県知事との対話は大変効果的な取り組みでした。それが引き金となり、その後東松山RC・東松山むさしRCの市町村へのマスク寄贈、深谷RCの深谷赤十字病院への支援金寄贈、行田さくらRCの市への防護服一式の寄贈等活発な社会奉仕を実施して、新聞等にも報じられたことは最近にない快挙でした。

その時その時の状況に応じた素早い判断と行動とが日頃ロータリー活動によって培われたものと思います。大成功でした。

鈴木秀憲ガバナー、2019-20/RID2570素晴らしきリーダーシップを発揮していただき、難題の多かった今年、ご苦勞様でした。

7年前にも当地区ガバナーとしてご活躍しての再就任でした。ご本人も、ご自身のモチベーションを再び奮い立たせ、見事に素晴らしいスタートをしていただき安心しておりました。当初の世界状況は、デジタル化による速いスピードでの経済変化、そこに米中やEU問題、日本や世界各地で起きた大災

害など地政学的リスクも加わり不安定でした。

後半は『COVID-19』ウィルスの世界的感染の恐怖と対応の難しさがロータリー活動にも影を落とし、現在も大混乱をしております。この異常状態にロータリー活動の目的をもって対応していただきました。「with CORONA」の状況はまだ数年続くと考えます。当地区もロータリー活動を通じて協力していきましょう。ありがとうございました。



立原 雅夫

川越

鈴木年度の役員皆様の
結束と対応に感謝して

茂木 正

本庄

鈴木年度頭書ガバナー公式訪問も終わり、地区としてのいろいろな取り組みがスタートしました。そしてその集大成である処の実りの季節と収穫祭が見えてきたときに、コロナウィルスの罹患と蔓延防止のために、ロータリー活動が世界的なレベルでストップとなってしまった事は、返す返すも残念な事でした。

7年前に既にガバナーとしての実績と辣腕を振るってこられた鈴木PDG. に大きな期待と喜びをもって地区の皆様が心躍らせてこの年度に臨んでいたことと思います。私達のロータリー活動を新聞に大々的に掲載してロータリーの在り方を一般の地域皆様に知って頂けたことは特筆しなければなりません。

鈴木年度を大いに評価するのは、コロナウィルスの蔓延でロータリー活動が全面的に中止に追い込まれてからの行動でした。地区役員皆様が結束し、直ぐに対応を執られていったことです。埼玉県へのフェイスガードの寄贈に始まり、その行動は素早いものがありました。

私達のこの活動は、鈴木年度によってどんな困難に遭おうともロータリー活動を持続し世界の仲間と繋がっていると感じさせていたける年度になりました。

鈴木年度を支えて頂きました役員をはじめ多くの皆様に心からの感謝と、ガバナーを陰で支えて頂きました藤倉地区幹事に御礼を申し上げます。

2019年5月に地区研修協議会が開催され、鈴木ガバナー（エレクト）は地区テーマと運営方針を発表されました。「Rotaryは世界をつなぐ」RIマローニー会長のテーマの下、4つの強調項目を上げられました。そして、鈴木ガバナーは「つなげる・未来へつながる」という地区テーマの下、組織運営や奉仕活動を、次に「つなぐこと」に重点をおかれた政策をとられました。

ところが本年1月後半より新型コロナウイルス問題が発生。COVID-19はパンデミックとなり、

Rotaryのあらゆる行動が自粛され、最大のイベントである地区大会や世界大会も中止、各クラブ例会はほとんど休会となってしまいました。鈴木ガバナーはさぞかしご無念であったと思います。後半は緊急事態宣言の中、「ロータリアンとしてどうあるべきか」の信念の下、青少年交換留学生の対応や埼玉県への寄付など、適切な処置をとられ、まさにロータリアンとしての優先事項と意義ある奉仕活動にご尽力され、心から敬意と感謝を申し上げます。

鈴木年度を振り返って



相原 茂吉

川越

鈴木年度を振り返って——ガバナー補佐

第1グループ

鈴木年度を 補佐として振り返り思う事



藤島 弘士 越生毛呂

私は第一グループガバナー補佐の藤島です。

2019-2020年鈴木年度の補佐としての幕開けは、7月8日川越中央クラブに訪問致しまして、7月9日は川越クラブと続き、結びの川越小江戸クラブを訪れたのは9月6日でした。何とか11クラブを無事に訪問することが出来ました、、、と、私は思っていますが??

例会はスケジュールに私の補佐としての時間が約30分組まれて居り、やはりRI会長メッセージと共に鈴木ガバナーの地区テーマと運営方針の説明を聞いて頂きました。又、内容と致しましては、そのクラブ、クラブの特色と云いますか、色と云いますか、各クラブの年度計画書を始めから熟読し、そのクラブの歴史等々、感想を述べさせて頂きました。

又、その間、公式訪問が都合6回あり、鈴木ガバナーのお供をさせて頂き、ロータリーの基本、そして、これからのロータリーの有り方等、色々な角度から勉強し、有意義な時を過ごしました。

私にとりまして、これから続くであろう、ロータリー活動の大きな糧となった事は云うまでもございません。

もう一つの大きな補佐の役目として、会長・幹事会がありました。

7月23日は川越で第一回を行い、第四回迄行いましたが、第5回目の新旧

会長・幹事会はコロナウイルスの為、中止となりました。そして、3月29日予定しておりました第一グループのIMも、コロナの為中止、地区大会、地区協議会も同じく中止となりました。

補佐としての任期の上半期は予定の行動を実行できましたが、下半期はロータリアンの皆様の安心、安全を考慮致しますと、止むを得ず勿論中止。本当に残念な気持ちと共に一日も早く、元のロータリーライフが出来ます様に

第3グループ

楽しかった補佐訪問



徳永 眞澄 新所沢

昨年5月末に急に補佐をお受けすることになり、準備する期間もなく、補佐訪問、ガバナー訪問に突入し、7月から10月は気持ちが張り、充実

第2グループ

鈴木年度を振り返って



松川 厚子 和光

まず初めに第2570地区で初めての女性のガバナー補佐にいただきありがとうございます。うれしさと名誉で身の引き締まる思いでした。

次にガバナー訪問・補佐訪問ですが、第2グループは少人数クラブが多いのにクラブ運営がきちんとできていて感心しました。年間計画書など他クラブのことを知ることが自分のクラブの弱点を知ることになるということを学びました。補佐訪問の時、私のキャリア不足で初めは上手な卓話ができませんでした。各クラブの会報に載せていただく度に形になっていきました。それに比べ鈴木ガバナーの卓話はいつもとても上手で差は歴然としていましたが私も下準備をさせていただいた後一緒に伺わせて頂きとてもうれしかったです。藤倉地区幹事とガバナーは仲良しで長年の素晴らしい信頼関係の故と何時も憧れていました。ガバナーのお陰で今年は、ガバナー月信の表紙をはじめ女性の地区役員に

随分スポットをあてていただきました。女性の活躍の場が広がれば女性会員の増強に役立つと思います。IM後コロナ感染で一時活動が休止しましたが、最後

第4グループ

願っております。

補佐の私より鈴木ガバナーのお気持ちを考えますと、如何ばかりとお察し致します。

次年度は、平和な日本に戻ります様お祈りすると同時に、地区の役員の皆様、各クラブの会員の皆様の安寧を願います。

結びにロータリアンの皆様の御指導ご鞭撻を多大に頂きまして、紙上をお借り致しまして御礼を申し上げます。



村田 貴紀 本庄南

第4グループ11クラブ 会長・幹事・会員 皆様へ感謝！

2019-20年度 第4グループ活動内容

1. 11クラブ 提唱により、台湾への超音波診療車寄贈（グローバル補助金活用）
2. 9クラブ 100%PHFクラブ 達成
3. 会長幹事LINEグループ開設
4. 2019-20年度、第4グループフェイスブック開設
5. タイへの小児透析機寄贈（グローバル補助金活用）
6. 各クラブ の活動内容につきましては、11クラブパネル紹介の冊子を作成

鈴木ガバナーはじめ会長・幹事・全ての会員の皆様の暖かいご協力と力強い支援のおかげで、無事任期を全うすることが出来ました。心からの感謝を

申し上げます、簡単にはなりますが年間の活動報告と致します。ありがとうございました。

した期間でした。11クラブを回り、それぞれのクラブの良さを初めて知ることができました。また、我が新所沢クラブの良さも再確認できました。

IMについて、事前に考える時間もなく、本年度は開催しないことにいたしました。開催することにしていたとしても、コロナウィルスの影響で中止することになっていたかもしれないことを考えると結果としては良かったという気がしています。

鈴木ガバナー、各ガバナー補佐の方とお知り合いになれたのも幸せです。ロータリーの良さは、人との出会いの幸せを実感できることだと改めて思いました。貴重な経験をさせていただき、どうもありがとうございました。

第5グループ

ガバナー補佐・一年を顧みて



新井 啓介 行田さくら

行田さくらRCを代表して、私がガバナー補佐になるとは思っていませんでした。当初は戸惑いと不安がありましたが、お陰様で多くの経験と勉強をさせて頂きました。鈴木ガバナーは、やむを得ず2度目のガバナーという事でしたが、地区の為に、熱心に取り組んでくださいました。第5グループ吹上クラブからのガバナーですから、グループ内10クラブにご協力を頂き、私は補佐としての役目を

させて頂こうと思いました。7月からの補佐訪問、ガバナー公式訪問同行では、各クラブの皆様には温かく迎えて頂きまして、ありがとうございました。

また会長幹事会（5回）は、情報伝達・交換、親睦と有意義な会となりました。そして2月24日IM（インターシティミーティング）を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染症対策をしておの開催でしたが、ほぼ予定通り開催できましたことに感謝申し上げます。その後、3月～5月感染拡大で、自粛状況が続き、すべてが休会休業になってしまいました。残念なことに4月18・19日の地区大会、6月のハワイ国際大会は、中止となってしまいました。6月から徐々に再開しておりますが、感染症対策をしながらの活動は、しばらくの間大変だと思います。会員数371名でスタート致しました第5グループは、現在373名（5月末現在）ですから、2名の増強ができたものと思います。

皆様、一年間ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

までガバナー補佐のことを気にかけてくださり鈴木ガバナーの下で活動させていただきまして私達は果報者と思っています。ありがとうございました。

地区を救った鈴木秀憲ガバナーの一年
会員研修・RLI担当として

パストガバナー
研修委員会
加藤 玄静

本庄

本年一年は激動であり、ロータリーに入会後記憶に残る年度になりました。

鈴木秀憲年度に入り（ガバナー指名委員長坂本元彦氏）、ガバナーエレクトに入間ロータリークラブ水村雅啓氏、ガバナーノミニ本庄南ロータリークラブ村田貴紀氏が決まり、漸く地区も軌道に乗りました。

年度後半は世界中を脅かした「新型コロナウイルス感染症」拡大の為、「幻の地区大会」を始め行

事・奉仕活動・例会は中止又は延期となりました。自粛規制により経済活動はもとより日常生活は奪われ、体調にまで大きな影響を及ぼしております。新年度を迎え早期完全終息を唯々祈るばかりであります。

委員会活動報告は「地区大会記念誌」に掲載されておりますので、あらためまして研修担当栗山昇氏、RLI担当渡邊藤男氏はじめ委員会の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

鈴木年度第1回
地区戦略計画委員会

パストガバナー
戦略計画委員会
坂本 元彦

富士見

2019. 7.27 於、福登美

出席者

：坂本元彦委員長（富士見RC）
：鈴木秀憲委員（吹上RC）
：高柳育行委員（本庄RC）
：相原茂吉委員（川越RC）
：梅澤将明委員（坂戸さつきRC）
：栗山 昇委員（朝霞RC）
：田中八束委員（狭山中央RC）
：新島修一委員（深谷ノースRC）
：田代充雄委員（熊谷西RC）

「議題」

1]2022年規定審議会への取り組み
2]クラブ戦略計画委員会の問題
3]地区グループ編成について
4]その他

「決定事項」（全会員出席）

1]規定審議会（意義、メー切日等）
①ガバナー公式訪問時に可能であれば説明をする。
②各グループ補佐（鈴木年度、相原年度）から会長幹事会時に話す。
③各グループの委員からも出来れば話す。
2]クラブ戦略計画委員会
各クラブはクラブ戦略計画委員会を設置する様に努める。
3]地区グループ編成
現状のままでいい。
4]その他
研修委員会主導にてガバナー補佐研修を行う。

職業奉仕委員長として



パストガバナー
職業奉仕委員会
高柳 育行

本庄

「自分を磨く、自分の職業を磨く」ことを意識していただく職業奉仕のあり方を年度前から伝えてきました。ロータリーでは異業種の方々と出合い、数々の喜怒哀楽を共にし、そのことが磨くことに繋がっていると思います。時には、自分が希望しないことを体験することも大事なことです。今年になってCOVID-19の感染拡大により、多くのロータリアンが影響を受け、自分の生き方や価値観、また自分の仕事について考える機会が与えられたと思います。感染症が世界中に蔓延するなかで、新たな仕事の在り方や価値観が生まれることでしょう。そのような時期に、皆様の思いを語っていただいた「磨く」を発刊しました。各クラブにお送りしましたので、ご一読いただき、更にご活用いただきたいと思います。地域社会で人々に役立つ仕事を目指して過ごすうえで、「自分を磨く、自分の職業を磨く」ことは、より高い倫理観を保つことになると思いますし、引き続き心がけたいと思います。

新型コロナウイルスの世界的大流行
「ロータリー国際大会」、「地区

パストガバナー
国際大会推進委員会
細井 保雄

行田さくら

2020年6月6日（土）～10日（水）開催予定でした第111回ロータリー国際大会が中止となりました。6月7日には地区ガバナーズナイトも開催予定でした。誠に残念です。実に当地区からは国際大会62名、地区ガバナーズナイト117名が参加予定でした。登録を頂きました皆様ありがとうございました。4名の各グループ担当委員の皆様には、ご協力を頂きありがとうございました。国際大会は、私たちロータリアンとロータリーファミリーの皆様にとって、ロータリーを学び親睦を深める機会です。今回は大変残念でしたが、次年度（2021年6月12日～16

危機管理委員会の1年



熊谷

パストガバナー
危機管理委員会
前嶋 修身

本年度当地区は鈴木ガバナーが再登場され、また、後半は新型コロナウイルスの影響で殆どの行事が中止となる異例の年でした。

誤解される会員が多いのですが、「危機管理」とは、青少年育成プログラムに参加する全ての青少年をハラスメント及び事故・災害から守り、防止することです。

本年度は委員会を開催し、委員会全員で危機管理委員会の意義について改めて協議しました。年度途中から、新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受けて青

少年交換活動のアウトバウンド学生とインバウンド学生のそれぞれの帰国問題が発生し、地区青少年交換委員会の委員の皆様には大変なご苦労がありました。深く感謝いたします。また、相原ガバナーエレクトより、新型コロナウイルス感染の影響による地区の行事の開催についての諮問があり、協議のうえ回答いたしました。

ロータリーで「事業」



川越

公共イメージ委員会
西澤 堅

鈴木年度、公共イメージ委員会委員長を務めさせて頂いたが

コロナ禍の中手探りで認知度向上を模索した。

委員会は実効力のあるメンバーに恵まれ、運営は円滑であった。ほとんどの行事が中止となり「幻の地区大会」となったが、実施したかの様な記録誌も作成され心に残る一年であった。鈴木ガバナー、藤倉地区幹事の英断で県に対し、2770地区と共同して寄付金を拠出、フェイスシールドを寄付されました。この事を、ガバ

私は同年都内での会員基盤セミナーに参加し、そこでご講演された田中氏の会員増強に対する手法を是非、地区の会員の皆様に聴いて頂きたと思いお招きしました。

同年12月には熊谷市のホテルアンバサダーにて会員増強セミナーを開催し、各グループの若手会員の方々によりパネルディスカッション形式でロータリーについての新鮮な想いを聴かせて頂き感銘を受けました。このセミナーではロータリアンではない人達への参加を呼びかけましたが、残念ながら少数の非ロータリアンしか参加して頂けず、今後は方法論を考え直す必要性もあると感じた次第です。

ナーは「広報」というより「事業」と言われます。ロータリーの理念の下混迷する社会に対し広報と事業のバランスのとれた施策の実行がこれからは重要だと考えます。不透明で厳しい時代となりましたが、新しい時代のロータリーの存在価値を夫々の会員が考え、一人一人の行動を通じて世の中に発信して行く事も大切だと思います。1年間お世話様になりました。有難うございました。

11

によって中止となった ガバナーズナイト」

日) お隣の国 台湾で開催される「台北国際大会」を、そして「地区ガバナーズナイト」を成功させましょう。

一年を振り返って



入間

社会奉仕委員会
水村 雅啓

本年度は、地区テーマの一つ「基本に帰

る」を念頭に、各クラブが行っている社会奉仕活動をもう一度見直す機会をつくることを委員会の大きな方針としました。7月のセミナーでは、事前アンケートの集計をもとに各クラブの社会奉仕活動の現状と特に参考となる活動を紹介し、今後の活動の参考にいただきました。また、事業を行うに当たって、地区補助金の活用を勧め、その方法をR財団委員会から説明をもらいました。お陰様で多くのクラブから申請があり成果があったと感じています。

その他、アイバンクの啓蒙活動、ブライダル参加者拡充のお願いなど積極的に活動を行いました。1月には、委員会研修でロータリーの友事務所、ロータリー文庫、東京西RCを訪問し研鑽を積みました。年度後半は、新型コロナウイルスの影響により、中止となる事業もありましたが、各クラブの会長、会員の皆様にご理解ご協力いただいたことで無事一年を終えることができました。皆様に深く感謝を申し上げ、ご報告と致します。ありがとうございました。

初めての貴重な経験！



青少年奉仕委員会
坂口 孝

今年度も7月7日の地区役員合同会議から始まった。

何時もと変わりにく全ての役員の方々と和やかな雰囲気であった。

当委員会も青少年交換小委員会から始まり、IACの年次大会、と順調な滑り出しである。2020年に入り、武漢から新型コロナウイルスの報道がテレビを賑わせ始めたが、2月11日のRYLA dayは未だ何の問題もなく開催することができた。

その直後の2月25日、ライジェムよりCOVID-19の指針が発せられ、様相は一変した。直ぐに、鈴木ガバナーに報告させて頂いたが、ガバナーの決断が早かったので助かりました。

「速やかに、IBS、OBSを帰国させる様に」と言う指示を頂いた。青少年交換の中島委員長、並びに高橋貴子委員の強力なお手伝いを頂

き、無事、殆どの留学生を帰国させることができました。詳細については、先に発刊された「幻の地区大会」に高橋貴子委員の投稿があるので是非、皆さんにご一読頂きたいと思います。

貴重ではあるが、二度としない経験はさせて頂きました。1年間に難うございました。

国際奉仕の年間事業を振り返ってみて



国際奉仕委員会
梅澤 茂

今年度の前半は委員会で計画した通りに、各事業がスムーズに進行していきました。最初の事業でもある8月のセミナーでも鈴木ガバナーをはじめ、各クラブの会長さん委員長さんが多数参加していただき盛大に開催することが出来ました。またセミナー後半では全員参加で3グループに分かれてRLI方式によりディスカッションをして頂き、終わりに各グループの代表が発表しました。参加者が国際奉仕活動に対する新たな認識をし、とても有意義なセミナーであったと聞いて、委員会の皆さんの努力が報われました。

行田消防署から頂きました消防車も、タイの3350地区のシーロムRCが受け入れて、

3330地区カンチャナブリRCを通して地元の消防署へ寄贈することができました。地域の発展に寄与するものと思います。この事業も多くのロータリアンの皆様のご協力を頂き、感謝申し上げます。

今年に入りまだ新型コロナウイルスの感染拡大が少ない、2月1日から7日の朝帰りでミャンマーの現地視察をしてきました。HIV施設訪問、今泉ミャンマー支部OBと奨学生との交流会、支援学校の訪問、セントラルヤンゴンRCの役員さんと、これからの国際奉仕活動について懇談してきました。6月から学校支援事業が始まっています。

2月にタイの3350地区、シンブリ・ピーラチョンRCと昨年度より取り組んでいました、グローバルグラントを使っている医療支援事業が承認されました、GG2094708です。しかしながらCOVID-19の影響で寄付集めが遅れてしまいました、ロータリー日本財団へ皆様からの浄財と深谷ノースRCからの寄付金の振込が5月中旬に完了しました。

6月の初旬にベトナム学校支援事業で現地視察を計画していましたが、今回は渡航が出来ないので米山奨学生OBのマイ君に事業を進めるようお願いしました。現地へ行けるようになりましたら訪問したいと考えています。

世界中でまだ感染拡大が続いています、私達の今ま

での生活習慣や、社会経済活動、そしてロータリー活動も変革しなければならない時です。結びに、鈴木ガバナーをはじめ、関係者の皆様のご協力一年間有意義に国際奉仕活動が出来ましたこと、本紙面をお借りいたしロータリアンの皆様に深く感謝申し上げます。

2019-2020年度活動報告



ロータリー財団委員会
茂木 聡

本年度、各クラブの皆様にご協力頂き、ロータリー財団の目標の一つであった【年次基金寄付ゼロクラブ】ゼロが、当地区として達成できたこと、厚く御礼申し上げます。日本の34地区の内、当地区が最初に達成致しました。

地区補助金は31のクラブに

利用頂きました。地区のDDFを利用しているグローバル補助金プロジェクトは4件実行されました。そしてロータリー財団奨学生をイギリスとイタリアに派遣(留学)も致しました。

ロータリー財団の活動は、皆さまの寄付によって支えられています。寄付はロータリー財団の補助金となり、助けを必要とする地域社会に使われ、世界でよいことを行う財団のプログラムを支えています。

年次基金寄付は一人当たり150ドルを目標にしています。残念ながら本年度は達成できませんでしたが、次年度はこれを達成できますよう皆様をお願い申し上げます。

1年間お世話になりました。



行田
さくら

ロータリー米山記念奨学委員会 島崎 義春

昨年4月の新奨学生オリエンテーション、5月のロータリーの森清掃活動に参加、6月の学友総会・新奨学生歓迎会、7月の米山記念奨学セミナー、8月の秩父音頭まつりに参加と前半は順調でし

た。昨年の9月8日、この夜大変な被害があった15号台風の当日、三島の米山梅吉記念館訪問と梅吉翁の墓参りに行きました。残念ながら、12時に記念館を退出、午後の予定をキャンセルして帰宅。ですが、参加した奨学生、学友達には大変いい思い出になったと思います。10月の米山月間、10月だけで30クラブ、卓話に訪問、米山記念奨学事業の理解と寄付のお願いをいたしました。昨年は自然災害が多く、11月3日、東松山スリーデイマーチに参加予定でしたが、大会そのものが中止となっていました。12月のカウンセ

ラー会議とクリスマス会は例年通り行うことが出来ました。

翌年になりますと、新型コロナウイルスの影響が出てきます。3月8日の終了式、悩みに悩みました。例年通りの終了式と歓送会は中止、米山の地区役員と学友の有志だけで奨学生を送り出しました。2週間後参加者に連絡をとり全員異常なし、胸をなでおろしました。

4月の新奨学生オリエンテーションは延期、新奨学生は、米山記念奨学会よりオリエンテーションの受講が義務付けられています。最後の最後、6月28日に実施いたしました。この間の4月、5月、6月

の3ヶ月間、奨学生達は大変不安がっていました。特にほとんどが苦学生です。アルバイトが出来ず厳しい生活をしていました。毎日のように連絡を取りましたが、励ますことぐらいしかできない自分の無力が身にしみた3ヶ月を過ごしました。6月28日に再会した奨学生は16名とも元気でした。ホッとしましたし、逆に奨学生から元気と勇気をもらった気がいたしました。

最後に、1年間米山記念奨学事業にご協力をいただきました皆様に心よりの感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

地区幹事・ガバナー月信編集委員会

行田
さくら



行田
さくら

地区幹事 藤倉 武

2019年～2020年度は、後半新型コロナウイルス感染拡大のため、振り回された後半でしたが、鈴木秀憲ガバナーの発案による、例年の活動には無い、種々の新

しい活動が出来ました事、素晴らしい事でした。

私は、鈴木秀憲ガバナーのご指導のもと、地区幹事として務めてまいりましたが、イベントとしては、2019年5月19日に行われた地区研修協議会が最初で、川本RCの皆様にお世話になりました。ありがとうございました。

次にやはり心に残ったのは、2019年7月16日 川越RCから始まり、11月12日狭山中央RCで終了したガバナー公式訪問に同行さ

せて頂いた事でした。都合のつく限り同行し、計29か所47クラブの皆様とお会いいたしました。当たり前の事ですが、各クラブの個性、雰囲気、また独自の奉仕活動を展開しており、改めてロータリーの多様性に納得した次第です。この様な経験は、地区幹事を経験して初めて感じられたことであり、私自身の見識を大きく広げさせてくれました。

2020年2月21日に行われたガバナー補佐、委員長会議、2月24

日の第5グループのIMを最後に主たるイベントは中止となってしまいました。

最後になりますが、鈴木秀憲ガバナーにご指導を頂き、又各委員会委員長、委員の方々、ガバナー月信の五十幡編集長、編集委員の皆様ありがとうございました。

私の人生の素晴らしいページを作ってくださった皆様方に改めて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

13



月信編集委員長 五十幡 和彦

御礼とお詫びと感謝の1年

鈴木ガバナーのご指導の下、ガバナー補佐、地区委員長、各クラブの皆様のご寄稿により、

この1年間ガバナー月信を発刊することが出来ました。またこの間、数々の誤植等があった事をお詫び申し上げますと共に、ガ

バナー月信編集委員皆様の献身的な協力のお陰で発刊できたことを心より感謝致します。1年間に難うございました。



矢澤 大和

コロナ禍

前鈴木年度も月信に携わらせていただいた。

当時netもそれなりに使用したが、大容量の写真等は、1メール1枚きり送れなかった。コ

ロナ禍で委員会が開催できず、6月号は総てメール編集。随分進歩したものだ。



橋本 恭一

五十幡委員長ご苦勞様でした
細井ガバナー年度の月信を担当した身でしたが、月信疲

れがあったのかあまり戦力になることができませんでした。
気の利いたアドバイスもでき

ず委員長より要望のあった写真を撮ったりなど微力な役割しか果たせませんでした。



渡辺 昭孝

ガバナー月信編集を終えて
編集委員会では主に校正を担当させていただきました。原

稿の確認に際しては、表彰を受けられた方などのお名前については特に注意をしております

ましたが、行き届かない点が多々ありましたことをお詫び申し上げます。



川野 健人

月信を振り返って
月信委員会の皆様、一年間お疲れ様でした。ほとんど私

は何もやっておりませんが、楽しく委員会ができました。月信委員会には、有能な方が多く

で良かったです。



宮本 伸子

ガバナー月信の編集に学ぶ
初めてのRI第2570地区での役割で、ガバナー月信の編集

は、とても有意義だったと感じています。地区の重責を担われている方々の発言、レポート

等、いずれもロータリアンならではと感じました。1年間、ありがとうございました。

2019-20年度 財務報告(収支計算書)

款 項	目	予 算	決 算
収入の部		46,531,000	50,055,546
地区賦課金		46,530,000	45,500,700
その他収入			4,197,460
雑収入		1,000	147
前期繰越金			357,239
支出の部		46,531,000	49,394,886
外部分担金		1,179,750	1,177,453
ロータリー連絡費		330,000	344,104
ロータリー文庫運営費		495,000	485,072
RIJYEM維持協力費		330,000	323,672
平和奨学生支援金		24,750	24,605
地区管理運営費		29,926,000	21,842,065
地区大会運営費		11,550,000	3,988,884
地区研修協議会運営費		1,551,000	1,372,330
エレクト活動費		1,500,000	1,500,110
地区事務所運営費		7,425,000	7,249,143
ガバナー月信発行費		4,000,000	4,059,877
会議費及び資料費		2,500,000	2,055,590
通信費		700,000	958,342
雑費		200,000	306,249
予備費		500,000	351,540
委員会別活動費		9,160,000	7,260,038
研修委員会		430,000	273,524
戦略計画委員会		300,000	
職業奉仕委員会		300,000	198,110
会員増強委員会		250,000	318,292
公共イメージ委員会		250,000	276,112
社会奉仕委員会		400,000	184,758
国際奉仕委員会		680,000	549,720
青少年奉仕委員会		5,200,000	4,562,353
ロータリー財団委員会		900,000	669,947
米山奨学記念委員会		450,000	227,222
地区活動費		6,265,250	19,115,330
人道的支援広報費		600,000	600,000
地域活性化広報費		1,400,000	940,220
危機管理委員会		50,000	23,440
RI会長テーマ推進費		500,000	270,872
規定審議会繰入費		200,000	150,110
希望の風奨学金		1,000,000	2,000,880
地区記念誌繰入金		200,000	200,110
合同役員会議費		1,000,000	358,382
雑費		200,000	4,808
予備費		1,115,250	1,108,872
特別寄付金			7,957,526
特別会計繰入金			5,500,110
差引残高			660,660

内 容
《会員1名半期14,100》
《RID2770から災害見舞金500,000》《所沢RC25,483》《財団補助金2,674,120》
《地区内40RCからRID2740へ見舞金785,857》《顧問教師会50,000》
《RIJYEM 140,000》《他22,000》
《銀行預金利息》
《前期地区会計繰越金57,239》《ローテックス前期残300,000》
《8/30 上期162,132+10,432》《4/20 下期161,100+10,440》
《9/25 上期242,982》《2/25 下期242,090》
《9/25 上期162,132》《2/25 下期161,540》
《4/20 支援金24,605》
《知事対談掲載新聞1,980,550》《冊子「幻の地区大会」1,352,780》《その他655,554》
《5/25 相原年度分1,372,330（当年度分1,027,900は茂木年度が支払）》
《2/11 次年度口座へ1,500,110》
《事務所家賃1,002,530》《人件費4,772,103》《その他事務費1,474,510》
《第1号（7月号）～第12号（6月号）及び第13号（総括号）》
《会議費1,139,796》《役員名簿472,557》《名刺422,971》《その他20,266》
《インターネット機器費及び通信費》
《交際費76,720》《ロータリー用品229,529》
《ガバナー補佐活動費251,100》《ロータリーの森活動費100,440》
《RLI日本支部分担金30,108》《研修セミナー 123,090》《RLIセミナー等120,326》
《各自持ち寄りにて会議開催した為出費無し》
《冊子「磨く」発行費》
《7/14 合同セミナー 116,602》《会議11,190》《教材29,310》《12/14 フォーラム161,190》
《7/14 合同セミナー 116,602》《2/2 セミナー 159,510》
《セミナー 63,608》《東京西RC・ロータリーの友事務所訪問113,210》《その他7,940》
《8/11 セミナー 142,224》《活動費407,496》
《アクト活動481,090》《ライラ活動810,567》
《青少年交換2,970,256》《RIJYEM保険300,440》
《RRFCセミナー 55,310》《委員会等290,716》《学生会活動178,094》《その他145,827》
《7/7 セミナー 73,432》《6/28 セミナー 153,790》
《読売新聞1,400,110》《消費税140,110》「END POLIO NOW、ロータリって何？」
《11/11 委員会3名出席23,440》
《7/1 全国ガバナー会120,432》《11/18 全国ロータリー研究会150,440》
《6/5 150,110》
《6/3 希望の風奨学金2,000,880》
《8/17 200,110》
《会場費633,382》《講師謝礼30,000》《講師車代10,000》《参加費△315,000》
《立替金等振込手数料》
《RID2740台風被害支援808,432》《RID2790台風被害見舞300,440》
《2,957,526埼玉県寄贈用フェイスシールド》《5/14 埼玉県へ5,000,000》
《RID2770からの水害見舞金500,000を義捐金会計へ》《5,000,000を危機管理基金へ》《振込手数料110》
《2020-21年度へ繰り越し》

国際ロータリー第2570地区2019～20年度会計を上記の通り報告します。

2020年9月11日

地区財務委員長 新井啓介

地区財務委員 渋谷健司

地区幹事 藤倉 武

【監査報告】

私は国際ロータリー細則第15条6節4項に基づき、国際ロータリー第2570地区2019～20年度の監査を行いました。

その結果、適正なものと認めます。

2020年9月16日 地区財務委員会監査

真下和男

2019-20年度の収支計算は左頁の通りです。

○ 年度前半には全国的に台風による風水害が発生し特にRID2740(佐賀・長崎地区の被害が大きく、全国全地区から支援することになり、当地区では急速各クラブへ支援依頼をし、早速80万円弱をお寄せ頂きました。地区では地区会計から若干を加え、¥808,000を送金させて頂きました。又、RID2790(千葉)地区の被害も大きく、地区資金から¥300,000をお見舞いとして送らせて頂きました。

○ 年度後半はコロナ禍により、多くの地区事業・行事・会務等を中止せざるを得ない状態になりました。各委員会に於いて計画事業を遂行できなかったことは残念であったと推察しますが、ガバナーとして大会を中止したことも大変残念でした。地区大会の中止やその他事業等の中止によって地区会計資金に余裕が出来ましたので、ロータリーとして何が出来るかを検討した結果、埼玉県へ「コロナ感染拡大防止」の為に500万円(RID2770と併せて1,000万円)を寄付しました。又、お金の寄付に併せて埼玉県へ「医療体制強化」の目的でフェイスシールド25,000基(RID2770と併せて50,000基)も寄贈しました。この財源はロータリー財団からの補助金(267万円)を活用し、地区会計からは30万円弱の支出で済みました。

○ 9年前に発生した東日本大震災で親を亡くされた子供達への教育支援資金「ロータリー希望の風奨学金」は、子供達が卒業出来る迄、後10年余り支援する必要が有りますが、昨今資金薄になってきています。当地区としては本年度100万を増額し200万円を拠出しました。

○ 上記の様に例年に増した支援・寄付をしましたが、それでも地区会計は年度末に500万円余りの残金がありましたので、危機管理基金へ500万円を繰入しました。

本年はコロナ禍の為、派遣交換学生へ安全確保の為に緊急帰国命令を発し、青少年交換委員皆様の世話になり無事に帰国出来ました。関係者の努力の甲斐あって、多額の出費は有りませんでした。場合によっては多額の出費を覚悟せざるを得ない状況でした。現状の危機管理基金500万円では心許無いと考えての500万円増額繰入です。ご理解願います。

○ 国際奉仕特別会計は、海外支援事業への補助金で、本年度は各クラブからの出費無しで、今迄の資金で対応しました。今後、この事業につきましては、ロータリー財団からの補助金を有効に活用下さる様お願い致します。

○ 規定審議会費用と60周年記念誌費用の積立特別会計につきましては、計画通り繰入れさせて頂きました。

○ 青少年活動特別会計とVTT・GSE特別会計につきましては、本年度の入出金は有りませんでした。

○ 以上特別会計を中心に記述しました。左頁の一般会計の収支計算書と併せてご理解頂きたいと考えます。

○ 通常、地区会計決算につきましては、地区大会の決議にてご承認頂いて居ります。本年度もそのようにお願い致しますが、計算が整いましたので本ガバナー月信へ掲載いたしました。地区大会の折には改めてご承認下さいますようお願い致します。

国際奉仕地区支援特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	6,086,116		前期残	6,086,116
2020/2月15日	28		利息	6,086,144
2020/4月30日		1,436,346	海外事業支援	4,649,798
		4,649,798	次期へ繰り越し	0

義捐金特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	10,582,885		前期残	10,582,885
2020/6月5日	500,000		本会計より繰入金	11,082,885
	0		利息	11,082,885
		11,082,885	次期へ繰り越し	0

危機管理特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	5,004,620		前期残	5,004,620
2019/8月10日	64		利息	5,004,684
2020/9月14日	5,000,000		本会計より繰入金	10,004,684
		10,004,684	次期へ繰り越し	0

60周年記念誌特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	200,000		前期残	200,000
2020/2月15日	1		利息	200,001
2020/8月17日	200,000		本会計より繰入金	400,001
		400,001	次期へ繰り越し	0

規定審議会対応特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	51,000		前期残	51,003
2020/6月5日	150,000		本会計より繰入金	201,003
	0		利息	201,003
		201,003	次期へ繰り越し	0

VTT・GSE特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	3,251,213		前期残	3,251,213
	0		本会計より繰入金	3,251,213
2020/2月5日	7		利息	3,251,220
		3,251,220	次期へ繰り越し	0

青少年活動費特別会計

日付	入金	出金	適用	残金
2019/7月1日	1,042,855		前期残	1,042,855
2020/8月10日	10		利息	1,042,865
	0		本会計より繰入金	1,042,865
		1,042,865	次期へ繰り越し	0

12か月分の表紙コレクション



ガバナー月信 第13号

2020年9月25日発行

2019-2020年度ガバナー
鈴木 秀憲

国際ロータリー第2570地区 地区事務所
〒355-0028 埼玉県東松山市箭弓町2丁目5番14号
ガーデンホテル紫雲閣内
TEL (0493) 21-2570 FAX (0493) 21-2571
E-mail = d-office@mail.rid2570.gr.jp
Website = <https://www.rid2570.gr.jp>

今月の表紙：鈴木秀憲ガバナー **吹上** (下段中央)
を中心として右回りにガバナー月信編集委員会
五十幡和彦委員長、渡辺昭孝委員、**行田 さくら**
矢澤大和委員、川野健人委員、**行田 さくら**
橋本恭一委員、宮本伸子委員、**行田 さくら**
そして、藤倉 武 地区幹事 **行田 さくら**